

「票はあるのか?」「ないのでこれから集めに行きます。ぜひ力を貸してください!」

森川ヤスエさんが初の県議に挑戦

後援会のみなさんへ

日頃のご支援に心から感謝申し上げます。わたくし、森川ヤスエは新聞で発表されました通り、来年の選挙は県議会議員へ挑戦することに決まりましたことを報告させていただきます。

決意するに至った理由は記者会見でも簡単に述べましたが「市や町の施策を応援する県政に変えるため市民の立場で声を届けたい」と思っています。

市議会で働いた23年の間に県政が図書行政の貧弱さや、子どもの医療費を含む福祉3公費の窓口無料の遅れ、消えた横断歩道や停止線に見られる交通安全のための施策など子育て支援策、市民生活の安心安全、そして医療福祉の分野が置き去りにされていると感じてきました。県の施策の足りなさを補おうと市で独自に行う努力に対して応援するどころかペナルティなどで歯止めをかけていると感じることが多く、市民生活を守る市や町の施策を応援する県政に変えるためにも市議会の3議席を守りぬいて、連携して鈴鹿市民の声を届けたいと思っています。

報道後の反応は「森川さんには市議会にいてほしい。今からでも断れないか」「本当はいいことなんだけど、悲しい」「やっとその時が来たな、頑張れ」など意外な立場の方たちからも、まだ市議会にいてほしいとお願いしていることや、県議会へ出かけて頑張れと励ましてくださる反応はどれも心が温かくなるものばかりです。この23年、森川ヤスエを市議会へ送り続けてくださったみなさんの思いをつないで勝つための闘いをしたいと決意を新たにしています。

あいさつに何うとまず心配してくださるみなさんは「票はあるのか?共産党は3人でどれだけ基礎票があるのか?」と勝算を問われます。私は「ないです。これから必死に集めに行きます。お力を貸してください!」と。

(鈴鹿市議会議員 森川ヤスエ)



森川さんの県議初挑戦を伝える伊勢新聞 7月3日

来年の三重県議選 共産が森川氏擁立へ 共産党三重県委員会は7月2日、任期満了(平成31年4月29日)に伴う次期県議選の鈴鹿市選挙区(定数4)に、同市議の森川ヤスエ氏(67) 同市矢橋三丁目 を党公認候補として擁立すると発表した。森川氏は沖繩県の伊平屋島出身。昭和51年に県内に移り住んだ。平成7年4月の鈴鹿市議選で初当選し、連続6回当選。市議会では総務常任委員長などを務めた。日大通信教育部商学部卒。

昨年末に県委員会から打診されて立候補を決め、6月に党中央委員会から公認を受けた。同党が同市選挙区に候補者を擁立するのは平成15年以来。過去に同市選挙区で同党の候補者が当選したことはない。

森川氏は会見で「市町を応援する県政を作らなければならないと痛感している。国保の運営が県に集約されることもあり、県政の中で議論する上でも共産党の議席が一人でも多い方が良い」と述べた。

県委員会は昨年12月、岡野恵美(1期、津市選出)、山本里香(1期、四日市市)の現職2氏が次期県議選に立候補すると表明した。「議席を倍増させたい」とし、今後も新たな候補者を擁立する方針。

憂いは万人のもの 衣斐弘行

嘘は泥棒の始まり、というのが、泥棒の嘘には「術」という方便意識があるが政治家の嘘には「罪」意識が内在する。否、「罪」意識があればまだしもそうした意識さえ持たないのが今の与党議員の感覚である。森友問題、加計問題、働き方法案、果ては改憲問題にいたるまでひとつとして誠意ある「嘘」（罪意識）すら感じられない。



そして、かつては与党議員のなかには気骨、反骨、義侠心をもった面白い人物もいたが今は安倍一強のもとみんながその提灯持ちになり下がっている。それは政治家に限らず官僚役人にいたるまで同罪である。

鈴鹿市出身の明治時代の毒舌家の斎藤緑雨は百年以上も前に、当時の政界を批判して、「昔の提灯持ち（政治家）は（民衆の）前に立って暗夜を案内したが、今の提灯持ちは人（体制側）の尻について行くだけだ」と明治政府に直言している。

こうした今の政界の中で唯一期待できるのが共産党である。そのことは「赤旗」紙を読むまでもない。「今」の提灯持ちには絶対にならぬことを私は期待している。

最後に再度緑雨の言葉を揚げておきたい。「喜びは一人のもの、憂いは万人のもの也。ここを以て合同は握手に非ず、反目也。提携に非ず、衝突也」

共産党はその路線を邁進している。

共産党に期待する

共産党とわたし

生涯の友と呼べる人と出会ったのは、私が共産党と「はじめまして」の時でした。やがて30数年、人生の半分以上の時間、共産党は身近に私のそばにあります。ここで出会ったたくさんの素敵な人たち。涙もくやしさも、あれもこれも明るく楽しくのりこえる粘り強さ。その輪の中でなんと励まされたことでしょうか。



（神戸 野崎洋子）

いま共産党が熱い。世の中がアツと驚く戦いで果敢にたたかう。「共産党 半端ないって!!」

森川ヤスエさんの 県議立候補を喜ぶ

先日、『女性は太陽』をポストに入れて歩く森川さんを見た。（同じ時間帯、別のところで同じことをしていた夫君も偶然見た。）彼女の市政だより『女性は太陽』は流れるように読みやすい。見やすい。市議会のようなすが手にとるように伝わってくるし、世の中のようにすまで分かりやすく教えてくれ、森川さんの人柄までにじみ出てくる。

話し方の勉強だけではなく、話す中味をみんなの中に入れて拾ってきたのだ。前の選挙戦の時、暗くなつて、誰もいない田んぼに向かつて話している森川さんを見た。その時も変わらなかつた。森川さんの目には、弱い人、困っている人がそこに見えているのだ。ヤスエさんは沖縄でとれた。沖縄の心を深くその中に持っている。だから、強い。負けない。闘いをやめない。こんな森川さんが市から県に移り、私たちのために働いてくれるなら、心から応援したい！



お話も分かりやすいし、聞く人の心を打つ。道行く人も思わず立ち止まる。決して、抽象的にアジェンション（あおつたり、そのかしたり）しない。その今があるのは、森川さんが努力したのに違いない。それは

（鈴鹿市日本共産党後援会事務局長

萩森繁樹）

共産党創立96周年の今...

私と共産党との出会い

それは今からもう半世紀以上も前の昭和36年頃のことになります。当時、鹿児島でふんぷん原料の芋などを栽培していました。前年の日米安保条約改定とセットで締結された日米経済協力によってコーンスターチなどの安い輸入デンプンが出回り始めていました。経営が苦しくなった農家の中には大規模農業によって巻き返しをはかろうという人もいましたが、多額の借金を抱えて一層の苦境におちいるばかりでした。私は農業政策の矛盾を感じるようになっていました。

そのころ、偶然立ち寄った本屋にあった共産党が発行する「前衛」という雑誌が目にとまり、ぱらぱらと見てみると農業に関する論文が載っていて食い入るように読みました。青年団活動の中で知り合った先輩と「前衛」の記事について話をすると彼は日本共産党の党員で日本の農業を変えるために共産党へ入っていっしょにがんばろうと入党を進められました。ためら



うことなく入党した私は農業問題だけでなく広く社会の出来事にも関心を持つようになり、当時、高まっていた沖縄返還交渉に向けた運動やベトナム反戦運動にも参加しました。

しかし、なんといつても保守的な土地柄、共産党に入つたことを知った両親からは勘当される始末。やっと理解を得るまでに数年かかりました。最近では故郷に帰ると昔、圧力をかけた人も「よく帰ってきたな」と歓迎してくれます。苦勞もありましたが、活動の中で得た友人は生涯の宝です。命のかぎりがんばりたいです。

(北玉垣町 豊留正利)

やっぱり共産党は

カッコいい

創立96周年…想像がつかない長い期間、私が生きた2倍の長さです。

そんな昔から日本共産党はあって、ものすごい弾圧の中、命をかけて反戦を貫いた政党で、ほんとカッコいいと思います。

他の政党はというと、名前を覚えた頃が変わったり、ひつついたり離れたり、恥ずかしいくらいコロコロと主義主張が変わる、そもそも党内で考え方がバラバラで結局よく分からん。

でもどうして共産党はブレないんだろ。それは小池さんに何でも聞いてみようのDVDを見てハツとしました。

『議員になりたくて共産党員になる人はいない、もともと共産党員でたまに議員になる。他党議員は選挙のときに政党を選んで入る。そこが違う。』

なるほどー！他の政党

議員は保身、権力を持ちたい野心がそれぞれにあるから、当選しそうな政党に入り、分裂したり、ひつついたりする。

共産党は社会をよくしなくて、反戦、反核、平和を願い、貧困がなく、自分含め皆が幸せになるようにつつ、そもその目線が違うからなんだと改めて納得しました。(今さらでごめんなさい)

思いが共通だからブレない。だから強い、タフでめげないんだな。

皆で共に幸せを産む党フッフ、やっぱり共産党はカッコいい。



(神戸 高橋さつき)



石田 秀三の

かけある記



痛快！前川さんの「面従腹背」

面従腹背 めんじゅうふくはい・表面は服従するように見せかけて、内心では反抗すること

元文科省事務次官の前川喜平さん、いまや各地での講演がどこでも超満員という人気者です。彼が昨年テレビのインタビューに「座右の銘は『面従腹背』です」と答えたのを見て、「すごい人だなあ」と驚きました。その前川さんがこの度、そのままのタイトル「面従腹背」という本を出しましたが、これがまた面白い！と言うより、国の教育行政・官僚のトップにいた人、それも安倍政権の下で出世してきた人が、実はこんなに自由に考え行動する人だった、ということに感動したのです。

組織の一員であっても、一個人としての自分は自由

前川さんは率直に書いています。「私は、現在文科省が行なっている全国学力テストに、実は反対だ。」

「私が文部官僚としてやりたくなかった仕事の最大のもは、2006年の教育基本法改正である。『国を愛する態度』を教育の目標に掲げることは、個人の内心の自由を侵すものだと考えた。」「君が代を歌わない生徒、全国学力テストに参加しない教育委員会、そういう信念を持った少数者が存在する社会の方がいい。」

昨年までの上司だった安倍首相・スガ官房長官、また与党の政治家たちも、言いたいことを言う前川さんにカンカン、あらぬスキャンダルをまき散らしたり人格攻撃に躍起ですが、国民は拍手喝采、よくぞ言って下さいました！第2第3の前川、出でよ！と期待が高まっています。

官僚を辞めて自由になった前川さん、いまの座右の銘は「眼横鼻直」（がんのうびちよく）だそうです。眼は二つ横に並んでいる、鼻は縦についている、ありのままがいい、という意味です。

（鈴鹿市議会議員 石田秀三）

事務所改革委員会

共産党鈴鹿市委員会の事務所を数か月前からヒマを見つけては働きバチよろしくせつせと片付けの集団があります。その名も「改革委員会」。な



あんで仰々しく名乗っています。要はきれいで使いやすく、だれでも気軽に立ち寄ってもらえるようにというコンセプトのもと事務所を改善していきましようという有志の取り組みです。

そもそもの発端は共産党の志位委員長が新年の挨拶で「市民の皆さんが入って見ようという気になる事務所になっていきますか？」という問いかけがスタート。長年、臭いものにふたをするというか、散らかっていても見ないふりをする暮らしに慣れてきた私（たち）にはやや重いテーマでしたが、開かれた政党を目指すならそのくらいできないでどうする。ついでにリニューアルオープンに向け、あつちでトントン、こつちでカンカン、出るわ出るわ、ごみの山。奮闘すること半年、「ちよつとはよくなつたかなあ」と自負する「改革委員会」です。

もっとそこはこうしたら、ああしたら、というご意見お寄せくださいね。そしてあなたも改革委員会（年会費無料）へご参加を（笑）。

（後援会長 谷口 茂）



はしづめ圭一の はじめの一步

のどごしスッキリ！水出しかぶせ茶

毎年5月末に、日帰り人間ドック健診を受けます。胃カメラ、腹部エコー、心電図、腫瘍マーカー、血液、便、尿・・・等々の検査は、お陰様で異常ありません。でもこの10年来、肥満度と中性脂肪でのCランク評価が続いています。

保健指導対象ですが「自己管理します」と避けてきましたが、運動もなかなか続きません。食事で炭水化物を減らすことは1年以上続けていますが、体重は減りません。

今回、初めて保健士さんにアドバイスもらって、続けていることはビールを減らすこと。缶ビール350mlのカロリー消費には、ウォーキング60分必要らしい。毎日60分のウォーキングは続きませんが、缶ビールは止められるはず。ということで、1ヶ月以上毎日のビールは止めて、自宅

では焼酎も少なめの0.5合のみにしたら、体重も少し減り始めました！

そして、ビールに代わるものはないかと考え思い出したのが、4月末の茶摘み体験「すずか茶ポーター」で戴いて美味しいと思った「水出しかぶせ茶」。

さっそくお茶ポットを買ってきて、冷たく冷やして毎日飲んでいますが、ほのかな甘さと香り、のどごしスッキリで美味しいです。

これからの暑い夏、朝、昼、夜と、のどごしスッキリ！水出しかぶせ茶を飲んで、健康第一で、がんばります。

(鈴鹿市議会議員 橋詰圭一)



6月23日「江島つどい」に16人が参加

6月23日(土)江島4丁目集会所で「江島地域住民こんだん会」を行いました。事前チラシ400枚を配布し、知人にはお誘いもしました。「チラシ見た。参加したいので迎えに来て」という人や、地域の自治会関係者などが参加。「何だかんだ言っても安倍さんはようやると。代わる人はおらんや」と。代わるとを投げかけてくる人や、「今日は先生(橋詰議員のこと)が来るといふことがあつて来ました」という人がいて開会前から会場は盛り上がりです。手作りのおあんパンやお菓子・お茶も机に並べられ、いざ開会。

橋詰さん、他にも「公園の草刈りを半分しかしてくれない。何でいっぺんにしないのか」と。堤防が傷んでいる。津波がきたら心配。他にも「要望が出されまし。利用者が減った。子供の声のテープでアナウンスをするのが聞こえにくい」との話が出たところ、前半を終了。後半は時間が少なくなる中で、共産党は領土問題(尖閣・竹島・北方領土)をどう考えるか。共産党が政権をとつたら自衛隊はどうなるの2つの疑問にしばらく、小池さんのビデオ(5分)をみまじらした。みなさん、食い入るように見た後、「すつきり」とわたりや「自衛隊は憲法がとる一方、自衛隊は憲法違反という考えは改めればどうなるか」と。感想も出されまし。ご近所和気あいあいがついでした。

(白子後援会 吉田一男)



私のおすすめ 簡単レシピ

ニラと豚肉のキムチ炒め

自由が丘 桑原千香子さん



(材料) 4人分

白菜キムチ 300g
 ニラ 1束
 豚小間切れ肉 200g
 赤ピーマン 1個
 ネギ 2~3本
 しょうゆ 大さじ1
 砂糖 少々
 ニンニク 1かけ
 ごま油 少々

(作り方)

ニラは2~3cmに切り豚肉、キムチも適当な大きさに切る
 フライパンにごま油を熱して、みじん切りにしたニンニクを炒め、豚肉を炒める
 豚肉に火が通ったらキムチ、ニラ、赤ピーマンを炒め砂糖、しょうゆで味付けし、最後にななめ切りにしたネギを入れサッと炒める

暑くて食欲のない時にいいですよ!

絵手紙

伊藤多江子さん



絵手紙

新シリーズ 私の趣味

宮崎ヨシ子さん(国府町)

私の趣味は絵手紙です。ときどき、この後援会ニュースにも掲載していただいています。ちょっと気恥ずかしいですね。絵手紙を始めたのは今から15年くらい前になるのでしょうか。公民館のサークルに誘われたのがきっかけでした。

はじめのうちは年に50枚くらいの作品を描いていましたが、最近は少しペースが落ちてきました。

「絵手紙は下手なほうがいい」なんてよく言われますが、それは「気軽に気負わず描いたらいいよ」という意味でしょう。わたしもそれをこころがけ

て続けてきました。だから絵手紙を描いているときはゆっくりと時間が流れているようで私にとって充実したひと時ですね。いいお友達もでき

ました。野菜や花などを絵のモチーフに使われる方が多いですが、わたしはそれ以外にも挑戦したいと思って、描きたいなあと思うものを今、カメラに残しています。そのうち見ていただけるかな?



6月30日(土)白子後援会を中心とする6人が、東磯山4丁目で3000万人署名活動をしました。事前にビラが配ってあったので、書いてある家が7軒もありました。ある方は、「もうじき出かけるが、何時に来るのか?」と電話をくれました。ある方は「大事な署名なので、こちらから届けるつもりだった」と言ってくれました。ある家では「暑い中、こうやって回っていただきありがとう」と感謝されました。赤ちゃんを抱いたママは、話は聞いてくれましたが、「いいです」と断られました。留守以外では断られた家は少ないです。1時間ちよつとの行動で汗びっしょり。でも手応えがあり、「この地域はええ地域や」というのがみんなの感想でした。ウソをつきとおし逃げまくる安倍内閣、国民の怒りを署名にこめて突きつけた

編集後記

(よ)